

料金後納

ゆうメール

一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地元密着での建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躰ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの思いから、一度でも名刺交換などでご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。仕事でかわった皆様にお力添えいただきながら、社員の幸せと日々の成長を糧に、地域の皆様に必要とされる地元でのお役立ち企業を目指しております。

東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。
代表取締役 山本敬輔 営業スタッフ一同

第8回事業再構築補助金 採択

ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するため、中小企業等の事業再構築を支援すること目的として令和3年3月に第一回の公募が行われました。先月第10回の公募が始まりましたが、過去最高の応募件数があるのではと言われております。これまで採択を受けられたお客様の補助事業の工事などには携わらせて頂きましたが、弊社にて申請いたしました『ZEB化リフォームによる既存建築物の有効活用事業』を通常枠にて採択され、弊社でも事業再構築補助事業に取り組むこととなりました。

この度、採択された事業ですが、資材高騰や金融情勢が不安定な中で、建築設備投資に踏み切れない事業主や経営者の方も多くみえると思いますが、その解決策、選択肢のひとつとして頂けるのではないかと考えております。詳しい事業内容については、申請資料を公開しましたので是非ご覧ください。また、今後の詳しい事業進捗状況については、都度クライアントの皆様へ情報を発信していく予定でおります。

【採択事業概要】

事業用建築物の状況調査を適切に行い、そのインスペクションデータを基に、事業建築物をリユースするうえで重要となるコストに見合った長寿命化、インシヤルコストを考慮した環境性能向上（ZEB化改修等）リフォームを行い、劣化した建物の「長寿命化+省エネ性能向上」を実現するサービスを提供する。

自社オフィスビル（築32年）を改修モデルとし、リサイクルにも配慮した持続可能な建築設備投資を訴求するショールームとして新たに開設する。

令和6年7月頃改修完了予定

採択申請資料はこちら→



あなたのこだわりの空間はどこですか？



さっそくですが、あなたのおうちの中でのこだわりの空間はどこでしょうか？

『おうち時間を幸せに』本木雅弘さんのLIXIL CMのキャッチフレーズになっておりますが、ずばり私はトイレの中です。家庭の中で居場所がなくてトイレに引きこもっている中年親父というわけではなく、子供の頃から狭い空間が大好きで、今では家の中で一番落ち着く空間がトイレという事になります。漫画や本を読むのが好きで、昔と違って住宅のトイレもかなり衛生的な設計となっておりマイナスイオンやBGMも流れ、言い過ぎですが屋外のカフェにいる気分・・・！？

こだわりのリフォーム相談なら是非LIXILリフォームショップへ！

トイレリフォームの事例→



地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターがご不要な場合はお手数ですが0532-46-9336まで

豊橋市の都市計画

今普段の生活では、あまり意識せず過ごしていますが、不動産の仕事をするようになってから初めて自分の住んでいる街がどのようになっているか考えるようになりました。街の計画は、都市計画法で決められており、大きな枠組みとしては、市街化区域、市街化調整区域の二つに分けられます。また、都市計画区域外というところもあります。私が調査したなかでは長野県の山奥、岐阜県飛騨市の山奥など、まさに田舎というところでは都市計画区域外というところでした。近くに川が流れて、アスファルト舗装もあったり、なかったり、井戸水を使うのは当たり前という生活環境です。そのようなところでもインターネットはつながりますので、田舎の環境を好み、ネット上でビジネスをする方もいらっしゃいました。様々なライフスタイルがあるのだなと思います。

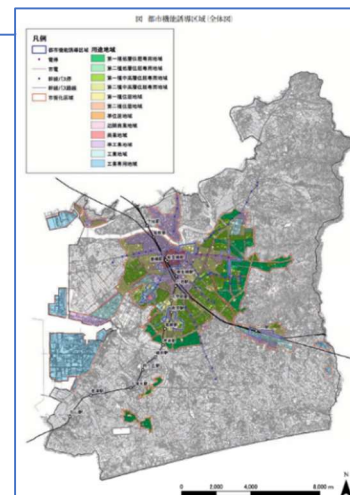
もう少し細かな街づくりの計画で、豊橋市では、立地適正化計画が定められています。

豊橋市立地適正化計画の特徴

豊橋市立地適正化計画では、まちの将来の姿を、「歩いて暮らせるまち」・「暮らしやすいまち」・「持続可能なまち」と捉え、さまざまな都市機能を使いやすく配置していく都市機能誘導区域とともに、将来の人口減少に備え、都市機能集積の効果を活かしながら、中長期的に居住の誘導を図る居住誘導区域を配置します。

日常的な暮らしを支える生活機能が集積し、過度に自動車に頼らなくても歩いて便利に生活できるまちづくりのために、居住誘導区域の中に「歩いて暮らせるまち区域」を設定します。「歩いて暮らせるまち区域」は公共交通幹線軸の沿線等に設定しており、様々な世代を誘導し、高密度な人口集積を維持することで、今後も市民の暮らしを支え続け、「歩いて暮らせるまち」を実現します。

このように豊橋市役所ホームページでは記載があります。なるべく、街の中心へ人口を集めたい計画でもあり、歩いて暮らせるまち区域へ引っ越しをすることでいくつか補助金の対象になってくることもあります。豊橋市では、ここ数年の間に豊橋駅周辺に分譲マンションが多く新築されました。今でも建設中のものがありますが、売れ行きは順調で人気があると聞いています。それでもそれぞれの事情があって、街中が便利だと感じる方もいらっしゃれば、少しのんびりとしたところに暮らしたい方もいらっしゃいます。



ご実家の近くを希望される方、通勤が便利なところが良いと希望される方、津波など心配のない安全なところが良いと思われる方など、不動産のお手伝いを続けているなかで、ライフスタイルは本当に色々だなと感じます。単純に街中は商業施設など充実していて便利だと思うかもしれませんが、賑やかだったり、駐車場がなかったり、金額が高かったりと、メリット・デメリット様々です。

都市計画によって住むところを誘導する計画があっても、それが浸透して人が動くには多くの事情関わっていますので、実際にはとても大変なことだと思います。不動産の仕事をしている身としては、お客様の状況を理解しつつ、都市計画におけるメリット・デメリットも説明できるように知識を身に付けていければと思います。